

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3373401037		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 美和		
所在地	岡山県真庭市榎東43-1		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成30年11月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

山林・田園に囲まれた昔ながらの旧家で利用者様ご自身も住み慣れた、なじみ深い環境の中で生活しています。「土いじり」を生活の中に取り入れ、安心して心穏やかに生き甲斐を感じられ笑顔のある生活をして頂ける「介護」に努めています。地域の方々・家族の方々との交流を深めながら、利用者様を支え合い居心地の良い施設を目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成17年に開設して14年目になる「グループホーム美和」だが、職員と利用者全員の交わり方が自然で温かく、2年前の訪問時とリビングの雰囲気ガラリと変わり、「ここに来てこんなに軽度の人ばかりなのは初めて」と、勤務年数13年目の管理者が驚きの声を上げる。特養に空きが出て重度の人が退所、一気に軽度の新規入所者が4名入り、現在の平均介護度は2.2と聞いた。山陽新聞の「滴一滴」の書写に黙々と取り組んでいる男女2名、塗り絵を前に「この着物の柄何色にしようか」と色選びを楽しんでいる人達、職員と本を読んでいる人、昼食前には皆で揃ってビンに見立てたペットボトルを使ってのボーリングに歓声上がる。何と賑やかで活気のあるホームだろうと思った。日々のその人らしい暮らしを大切にしており、一人ひとりのペースに合わせ希望に添った支援が出来るように取り組んでいる様子が今日の一日を通して確認出来た。地域に深く根付き地域と共に歩んでいるホームは、地域貢献の役割も担う唯一無二の存在かもしれない。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間での理念の共有を実践している。努力の足りない部分が多く感じられる事もある。	法人理念を掲げると共に、年度初めに職員全員で目標を立て、ホームの理念としてリビングに掲示して、職員一人ひとりが意識しながら実践している。主に接遇に関する目標になっているが1年間を通して振り返りをし、職員間で反省会をして次のステップに向けて頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が行事がある度に声を掛けてくれる。体調や天候に左右されるが少人数でも参加をしている。施設行事には地域の方々呼びかけを行い交流を図っている。	集落の中にある旧家を利用したグループホームという立地条件もあり、行事や日々の生活を通して地域と密接な関係、交流があり、利用者も職員も地域の一員としてその存在は大きい。小学校の運動会見学、地域の秋祭りには子供達との交流、ボランティアの訪問等、人の出入りがあるのも活性化に一役買っており地域貢献にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や畑仕事など交流の中で理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域代表者・市職員・施設職員との話し合いの会議録を掲示・家族へ送付にて報告している。要望についてはサービスに生かせるように努めている。	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催し、ホームの活動報告、ヒヤリハット・事故報告、情報交換等をして参加者とざっくばらんに話し合っている。家族には負担にならないよう2ヶ月毎に順番に声をかけ利用者と一緒に参加してもらい、その他の家族には議事録を送付している。	利用者と家族で1組という形で順番に声をかけ、声をかけられた家族の欠席はないと聞いた。必ず誰かの参加があり少なくとも1年半に1回は順番が来る。家族の参加が全くないホームも多い中、素晴らしい取り組みと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議・真庭市グループホーム連絡会議・久世地区ケア会議の場に於いて連携を取り合っている。	運営推進会議には市の担当者の参加があり、ホームの活動内容や実情をよく理解してもらっており、行政との様々な会議にも参加して情報交換をする等、地域包括ケア等に対してもよく話し合っている。その他にも何かあると担当者に相談して助言や指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無施錠を常に心がけているが、危険性があれば個人的にリスクに沿った対応をしている。	身体拘束廃止・虐待防止の勉強会を3ヶ月に1回、研修を6ヶ月に1回行ない身体拘束をしないケアを実践している。感情的に興奮した利用者が外に出て行き近所の人の協力を得て無事帰したケースもあったが、離れ過ぎず見守りながら満足がいくまで職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・職員会議の場で話し合いの場を持ち、防止に努めている。又、研修会にも参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで活用したことがないが、市などの研修があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項などを説明し納得を得ている。改訂時には文書で連絡を入れ来所時に口頭説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いて利用者や家族から意見を聞いている。	写真満載の「美和だより」で生活の様子を家族にお伝えしているし、家族との連絡帳で意見や要望を聞いたり連絡手段に活用している。面会時には必ず状況報告をし、必要に応じて随時電話等で連絡をしている。運営推進会議で出た家族からの貴重な意見・要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営規定を掲げており、職員会議の場で意見交換、個人的にも対応が出来るように努めている。	法人内の異動はあるが、ここでの勤務年数の長い職員が多く職員同士気心が知れた関係にあり、何でも話し合える空気がある。月1回の職員会議でケアカンファレンスや業務に関する話し合いをしている。法人トップの来訪もあるので相談しやすい体制も出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での「規約」通りに遂行されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内・外での研修に参加を呼びかけ知識の習得に努めている。職員会議の場に於いて発表している。(年/1回は必ず参加)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市のグループホーム連絡会議・研修に参加する事で交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族からの情報を基に何を必要としているのかを観察・傾聴に努め安心を確保し、馴染みの関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族から要望や困っていることを尋ねたり、傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時調査に於いて本人の要望を聞き取り、観察をして対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が施設内に於いて出来る事を考えながら、共通の作業を利用者同士、職員もその中に入る事で信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した時に、家族の思いを傾聴しながら信頼関係作りを行い利用者を共に支えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所に行きたい・買い物に行きたい等の要望があれば、無理のない程度で外出をしている。他に月／3回の外出日、月／1回の近況報告の手紙、家族との外出・外泊に努めている。	家族の面会はもとより親戚・知人・友人等も訪問しやすい環境作りをしており、気軽に来れる雰囲気がある。改造した旧家をそのまま住居としているので、馴染みのある生活様式が継続出来ており安心感もある。利用者同士や職員、近所の人達とも馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が「場」を盛り上げたり、掛け合いながら関わりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅の延長線として捉え、施設が出来る事があれば出来るだけ繋げるように努めている。	利用者個々の生活歴を把握し、日々の関わりの中でその人の思いや要望を聞き取るようにしている。自己主張の強い人もいれば、自分で出来る事は積極的にやってくれる自立度の高い人もいて様々だが、その人の個性を尊重し、その人の望む生活を実現しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を尋ね、ライフスタイルヒストリーを作成し、職員間で把握し生活環境に近いように支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人で出来る事をして頂き出来るだけメリハリのある生活に取り組んでいる。日常観察で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、より細かくケアが行き届くように努め、課題・ケア内容を職員会議・カンファレンスで話し合い、3ヶ月毎のモニタリングでより良く暮らせるように介護計画に反映をさせている。	日々のその人らしい暮らしを大切にしており、一人ひとりのペースに合わせ希望に添った支援が出来るようなプラン作りをしている。心に寂しさを抱えた人には1日1回は寄り添い傾聴の時間を作る等、精神面での支援も出来ており、「心のケア」を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のプランに沿ったケアを行い記録に残している。気付きの点も記録に残し話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人の時々にも発生するニーズ・状態に対応出来るように、朝のミーティングに於いて話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催し物には出来るだけ参加するようにし、又、ボランティアの慰問を受けたりしながら地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族の希望により決定し、外部医は家族が受診。受診日に日頃の様子を伝える。往診時はその日の朝、個人別の健康に関する情報をFAXし、往診時に結果や対応の指示を受けている。異常時の往診もあり家族に報告。	「真庭共通シート」(医療情報シート)には事前に家族から聴取した延命措置情報も記載されており、緊急時には職員がこれを持って救急車に乗るそうだ。協力医の往診はあるが、他科受診は原則家族が付き添っている。週1回の訪問看護があり、医療機関との連携もよく取れているので心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週／1回の訪問看護がある。その日の朝、連絡事項の確認を職員間で行い、看護師に報告・相談し医師の指示を受けている。日常生活の中で気になることがあれば看護師に相談を持ちかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に職員が付き添い、その時に情報提供を行い、入院中は定期的に病院側・SW・家族と連絡を取り合い情報交換をしている。病院訪問時には担当看護師により詳しく情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化した時の対応の説明をしている。かかりつけ医と十分に連絡を行いながら施設で出来るところまでは対応していくようにしている。	重度化した場合には特養への移行、医療が必要になった場合は医療機関への入院となるケースが殆どであり、ホームで看取りを行なった例はない。ホームで出来る限りの支援をしようと思っているが環境面からも今後も看取りの実施は難しいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の場で定期的ではないが、必要ときに勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの下、火災災害年／2回、自然災害年／1～2回の訓練を実施。マニュアルを作成している。又、運営推進会議の時に地域の方と話し合っている。	ホームの近くには河川があり、災害時には市の指定避難場所に避難するようになっているが、この夏の西日本集中豪雨の時には市の避難勧告を受け、設備の整った法人の特養に避難した。災害時マニュアルを変更し、今後も事前に分かれば特養に避難する事になっている。地域の人との協力体制もよく取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識して心がけてはいるが、声の質・表情が伴わない事が多く、個々反省をしながらしている事がある。十分気をつけながら努めていきたい。	ホームの理念や目標達成計画にも掲げているように言葉遣いや対応の仕方等、接遇には日頃から各自で気をつけている。敬語ばかりがその人を尊重するとは限らないので、時と場合によっては親しみを込めて土地の言葉やフランクな言い方をしてコミュニケーションのツールにしている。	人生の先輩であり、年長者を敬うのは基本のキであると同時に親しき仲にも礼儀ありが大切。職員の中には口調がキツイ（スピーチロック）と感じる場面もあり、職員間でお互いに気が付いた時に注意喚起を促す事も必要と思う。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を表せるような雰囲気作り・声掛けに努めたり、言葉の出ない方に対しては選択肢により思いが出せるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々自由に過ごせるようにしているが、職員側のペースに合わせている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい物を尋ねてみたり、その日の気候・温度を考慮したり、自分ですすんで着られる方にはおしゃれを誉めてきれいに整える気持ちを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは出来る範囲内で行ったり、希望の物を作ることもある。行事の時のおやつ作り・餅つきなどは時間を取り、して頂いている。	調理していた職員に献立作りを尋ねると「冷蔵庫の中と相談」との返事。食事作りも家庭の延長線上にあり、畑で採れた旬の野菜が食卓に上る等いただいた昼食も家庭のおふくろの味がした。利用者は全員自分で食べ、職員と一緒に楽しくおしゃべりしながらの食事風景だった。「元気の源は食にあり」を実感した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 一人ひとりの状態や習慣に応じた食事量・水分量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう支援をしている	水分一日に1500ccを基準にしている。食事量・食事形態は個人に合わせており、全て記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い、出来る方には声掛けをし、出来ない方には介助をしている。夜間は入れ歯洗浄剤で清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状態に合わせている。排泄パターンを把握し出来るだけトイレ使用に努めている。	軽度の人が増え、布パンツで排泄が自立の人が数名。職員のコマメな声かけで自分でトイレに行くようになったり、紙パンツから布パンツに改善した人もいる。男性2名も含め全員トイレ座位での排泄を基本とし、夜間は紙パンツ対応の人やポータブルトイレを置いている部屋もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜な運動に努め、便秘解消に水分・ヨーグルト・蜂蜜摂取に心がけ、出来るだけ「下剤」に依存せぬよう努めるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に添うことは難しいが、入浴に満足して頂くために隔日にして、ゆっくりと気持ち良く入って頂くようにしている。時として合わせることもある。	シルバーカー使用は1名だが、9名全員歩行が可能であり、ゆったりと浴槽に浸かって入浴してもらっている。入浴タイムは絶好のコミュニケーションの場であり、職員との会話を楽しんでいる。その日の気分や体調によって入浴を浴る人には無理強いせず、タイミングを見計らって声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々に合わせている。休息できるように室内環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋の確認、職員が解らないことは医師に尋ねて体調管理に努めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を通して完成した喜びを味わったり、出来る事をする、行事、誕生日会など気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月／3回の外出日以外に希望があれば出かけたり、可能な限り支援をしている。家族の方との外出・外泊が出来るように支援をしている。	月の中で「0」の付く日は外出日とし、買い物、ドライブ、外食等に出かけ個別外出支援もしている。とんど、お月見会、お花見、コスモス、紅葉狩り等季節の行事を楽しみ、自然の景色を鑑賞したり、天気の良い日は庭に椅子を並べて日向ぼっこや近所を散歩して気分転換をしている。	元気で動ける人が多い今こそ外出するチャンスなので、家族の協力を得ながらいろいろな計画を立てて外出を増やして下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持たたいとの希望があれば所持して貰っている。(家族に了解の上、紛失の事を考慮した金額) 所持者が持ち、買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば職員が電話をかけて話ができるように支援している。記録に残している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるように壁画・花を飾るようにしている。テレビ・カラオケなどの音・排泄臭・寒暖の差・危険物などないように配慮している。	毎月利用者と協働して壁画作りをしており、12月のテーマの雪の結晶の切り抜きをしている人もいれば、塗り絵をする人、「滴一滴」の書写に熱心に取り組んでいる人等、それぞれ自分の好きな事、したい事をして過ごし、食事の前には皆でボーリングを楽しみ活気が溢れていた。和風の旧家らしく木の温もりを感じさせる寛ぎのある空間になっている。	以前は玄関に展示していた写真集(アルバム)を前回訪問時のアドバイスに従いリビングに置いていると職員から聞いた。家族や職員がアルバムを利用者の目の前に置いて一緒に見ながら話をする機会を沢山作ってあげてください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になる事は難しい為に自室で過ごしてもらう。利用者同士で思い思いに過ごせる空間は作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んだり、使い慣れた物を側に置いて頂くように話している。自室に家族写真や作品を飾り穏やかに生活出来るように努めている。	元々あった旧家を改造して作ったホームであり、9室ある居室も広さや間取りに多少の違いはあるが、フローリングに洗面台が取り付けられ清潔な環境になっている。居室入り口に掛けてある職員手作りの暖簾がそれぞれの居室に趣きを添えている。午後の休憩タイムにはAさんの部屋から仲良しのBさんと会話する楽しそうな声が聞こえてきた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかりやすいように、共有・自室に名前をつけている。必要最小限の必要物にして混乱や危険の回避をしている。		